

(( ( 6/2 会員総会に向けて ) ))

### 「市民実験から市民事業へ」

本会理事会(第23回)では、今年度の活動方針として、これまで2つのエコプロジェクト(くるくる&菜の花)を統合して、地域エネルギーの自立を理念とした市民事業へと展開させることを、第3回会員総会に提起することを確認しました。

どのように事業化するかの学習を、市民や企業の参加で広めていきます。エコツアーと連動させた観光地らしい事業を見出したいと思います。

また、今年度は、「街なか再生」を活動計画の柱に据え、地元の大町駅前本通り商店街振興組合の地域通貨アルペンの実験や、柳沢理事が主導してすすめている「まちへ行こう!」プロジェクトに積極的に協力していきます。

総会の議案を同封しておりますので、会員のみなさまのご意見をお待ちしています。

### 地域自立型エネルギー事例を視察

地域の資源を活かし、かつ事業として成り立ちうる事業のすすめ方を学習するために、会員の猪俣毅さん(俵町)のご提案を受けて、県内の研究者が開発した廃プラスチック油化還元装置YUKAKIの導入事例を御代田町の園芸農家に、そして軽井沢町の星野リゾートでの歴史ある小水力発電を視察しました(4月11日)。

また、昨年2月に本会のミニ水力実験を視察され、本会の企業会員であるネクストエナジー&リソース(株)との協働で実現した養魚場でのミニ水力発電実験も視察しました(4月20日、写真)。



地球市民村の損保ジャパンコーナーに展示中

### 愛・地球博で大町のエコツアーをPR

~ 地球市民村の損保ジャパンコーナーで展示 ~

昨年の「元気大賞」を授与していただいたNPO法人持続可能な社会をつくる元気ネットのお力添えで、5月16日~29日の2週間、愛・地球博の地球市民村(長久手会場)にて、くるくるエコプロジェクトと大町のエコツアーをPRさせていただくこととなりました。5月16日、地球市民村での交流会では、傘木代表と大黒町自治会の太田勇会長がリレートークに参加しました。

### 「元気ネット」代表らが下見

上記「元気ネット」の崎田裕子理事長(中央環境審議会委員)ら3名が、今年度の「環境と経済の好循環のまち・全国サミット」の下見で大町市に来られ、エコツアーのコースやサミット会場の下見と大町市への表敬訪問を行い、「大町のエコツアー連絡会」のメンバーと交流しました。

崎田理事長は「大町は水が資源ということが肌で感じられた。いろいろなメニューを用意していただき、とても楽しみ。」と期待を述べていました。大町市の北沢助役も積極的な協力を約束しました。

## 「まちへ行こう！」プロジェクト

音楽仲間の呼びかけで始動

郊外への大型店の進出や極端な自動車依存社会になり、加えて今年2月の大火もあって、大町の「街なか」の衰退に拍車がかかりそうです。

そこで、市民の立場から「街なか」の楽しみを取り戻そうと、大町バンドサークルと大町市蔵の音楽館利用者の会のよびかけで、「まちへ行こう！」プロジェクトが始動しました。本会の柳沢和夫理事がコーディネートし、音楽関係以外の有志も実行委員会に参加しています。

本会も積極的に参画し、地元商店街での地域通貨アルペン事業とともに、「街なか再生」に貢献していく所存です。ぜひ、第1回まちなかライブ(6月4日)にお出かけください。

## キザキノナタネが満開

前年は失敗してしまったキザキノナタネ(オレイン酸豊富な健康志向食油の原料)が、今年のみごとに満開となりました。5月10日、例によって藤井英一理事の手際よさで、焼肉パーティを開催しました。開花前にもおひたしやてんぷらを事務所で試食しましたが、苦勞(?)のかいあって、とても美味しい春を迎えることができました。

また、美麻村の有志により「菜の花農業生産組合」発足し、昨年秋、本会の紹介により中山高原にもキザキノナタネが5.5ヘクタールも栽培されて、これも咲き出しました。同組合では、独自に搾油施設を導入する計画です。

こうした状況を受けて、現在、東京の業者の仲介で、消費地と連携した「菜の花トラスト」などの展開を模索しています。



コラム

## 持続可能な観光地づくり

観光に対する価値観が多様化する中で、自然体験や農業体験を組み込んだツアーが1980年代より増えてきました。しかし、結局は過剰消費を促し、自然環境を商品化するものとして、批判する声が増えています。

観光の語源は「国の光を観る」という中国の故事にあり、その地域の人びとが生き生きとしている様子を観て、旅する人が癒される、励まされるという趣旨だといえます。観光の本旨は「出会い」であり、受け入れる側の「元気」が大事だということを示唆しています。

これまで、大町は、立山黒部アルペンルートや高瀬溪谷のダム群などの開発により、雄大な自然環境を身近に観ることのできる魅力で、観光客を招き入れてきました。しかし「通過点」となり、地元の観光業を潤していないと指摘されています。足元のこの地で、自然環境や地球環境と調和するために、地域の恵みをいかして、私たちがどのような営みをしているのかを、発信していく必要があるのではないのでしょうか。

「大町のエコツアー受入れ連絡会」はそのような発信をめざしています。そして、この輪が広がって、持続可能な観光地づくりとして進展していくことを願っています。 傘木宏夫(代表理事)

第3回

## 会員総会のご案内

下記の要綱により開催いたしますので、出欠の通知をお願い申し上げます。欠席される場合には委任状をお送りください。

記

日時 6月2日(木)午後7時~8時半  
場所 いーずら大町特産館 3階  
議題 2004年度活動報告・決算案  
2005年度活動計画・予算案  
役員改選案

以上

NPO地域づくり工房・活動だより 23

発行責任者：傘木宏夫(代表理事)  
〒398-0002 長野県大町市仁科町 3302  
Tel.&Fax.0261-22-7601 E-Mail.npo@omachi.org  
ホームページ <http://npo.omachi.org/>